

# 高知県感染症発生動向調査（週報）

2018年 第46週 （11月12日～11月18日）

## ★お知らせ

### インフルエンザ予防接種について！

季節性インフルエンザは、その年により流行の程度に差がありますが、例年11月頃から患者が増え始め、12月から3月頃にかけて流行します。インフルエンザワクチンは、インフルエンザウイルスに感染した場合に発症を一定程度抑える効果や重症化を予防する効果が認められています。ワクチンを接種してから抗体ができて予防効果が発現するためには、およそ2週間かかると言われていています。かかりつけ医等医療機関にご相談のうえ、予防対策の1つとして予防接種をご検討下さい。

### ○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第45週の2.47から第46週は2.37と横ばいです。県全域から報告があり、幡多で急減していますが、須崎、中央西で急増しています。

学校欠席者・感染症情報システム※でも7例の報告があることから注意が必要です。

定点医療機関からのホット情報では、病原性大腸菌やカンピロバクター属菌等細菌を原因とする胃腸炎4例の報告や、ノロウイルス陽性1例、ロタウイルス1例、「胃腸炎が増えてきている」との報告があります。

病原体検出情報では、臨床診断名が「感染性胃腸炎」から Adenovirus 2 が1例検出されています。

＜予防方法＞ 手洗いが有効です。

帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。

便や嘔吐物を処理する時は、感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用方法を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

また、細菌による感染性胃腸炎の予防対策としては、食中毒の一般的な予防方法（食中毒菌を①付けない（洗う・分ける） ②増やさない（低温保存・早めに食べる） ③やっつける（加熱処理））です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけてください。

### ○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第45週の1.03から第46週は1.10と横ばいです。幡多で急減、須崎で減少していますが、高知市で増加しています。

学校等欠席者・感染症情報システム※でも溶連菌感染症11例の報告があることから注意が必要です。

定点医療機関からのホット情報では、溶連菌感染症6例の報告があります。

病原体検出情報では、高知市から搬入された検体から *Streptococcus pyogenes TB3264* が1例検出されています。

この病気は、高熱・咽頭痛・おう吐を主症状とする細菌性の感染症で、熱は3～5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善します。まれに重症化し、喉や舌・全身に発赤が広がる猩紅熱といわれる全身症状を呈します。また、リウマチ熱や急性糸球体腎炎などの合併症を起こすこともあります。

＜予防方法＞ 人から人への飛沫感染・接触感染が主です

人と接触する機会が増える時期に感染が起こりやすく、家庭や学校など集団での感染も多くみられます。うがい、手洗いなどの一般的な予防法を励行しましょう。

### ○水痘(水ぼうそう)に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第45週の0.17から第46週は0.33と増加しています。中央東で急減していますが、須崎、高知市、幡多、中央西で急増しています。また、全数把握感染症では高知市保健所管内から水痘（入院例に限る）1例が報告されています。

水痘は、患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによる飛まつ感染、水疱や粘膜の排出物に接触することによる接触感染により感染します。

潜伏期間は2～3週間程度で、軽症で終生免疫（一度の感染で生涯、その感染症にはかからない）を得ることが大半ですが、成人では髄膜炎や脳炎などの合併症の頻度が高くなるなど、重症化することもあります。またウイルスが治癒後、体内に潜伏しており、何年も経て「带状疱疹」として再発することもあります。

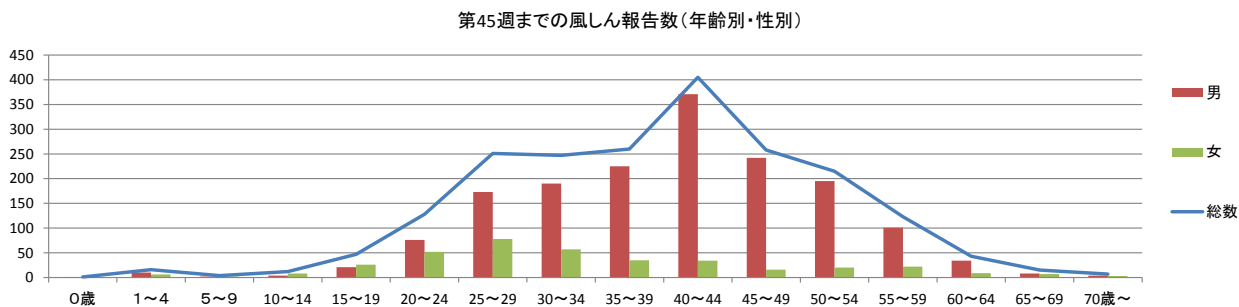
＜予防方法＞ 予防接種が有効です

人から人へ感染していく病気のため、感染源の人との接触を避けることが重要です。手洗いなどの一般的な予防法を励行しましょう。

また、水痘にはワクチンがあり、水痘ワクチンによって感染を予防することが可能です。平成 26 年より定期予防接種となっていますので、対象の方はかかりつけ医にご相談ください。

### ○風しんの届出数が多い状態が継続しています

関東地方を中心に風しんの報告が多い状態が継続しています。高知県の患者数は、2015（平成 27）年から報告はありませんが、2018（平成 30）年の全国の患者数 2032 人（第 45 週まで）のうち 96%（1952 人）が成人で、男性が女性の 4.4 倍多くなっています（男性 1657 人、女性 375 人）。



報告数の多い都道府県は、東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、愛知県以外に大阪府、福岡県、茨城県、兵庫県、静岡県など首都圏以外の地域からも報告が認められています。四国では、高知県を除く 3 県から報告がされており、報告のない県は高知県を含め第 45 週時点で 4 県となっています。

今後、全国的に感染が拡大する可能性がありますので注意してください。

<各医療機関管理者の皆様へ>

（高知県健康対策課 平成 30 年 8 月 17 日付け 30 高健対第 859 号「風しんの届出数の増加に伴う注意喚起」より）

- ① 発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、風しんに罹っている可能性を念頭に置き、最近の海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、風しんの予防接種を確認するなど風しんを意識した診察をお願いいたします。
- ② 風しんを疑う患者を診察した際は、確定診断のためのウイルス検査を県衛生研究所で行うので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へ届け出るようお願いいたします。

<県民の皆様へ>

風しんの予防、感染の拡大防止には予防接種が効果的です。

風しんの定期接種対象者は、予防接種を受けましょう（1 歳児、小学校入学前 1 年間の幼児の方）

風しんに感染した方の周りに抗体の低い妊婦がいる場合、特に妊娠 20 週頃まで（妊娠初期）の女性が風しんに罹ると胎児が風しんウイルスに感染し、難聴や心疾患など様々な障害（先天性風しん症候群）をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。妊婦や赤ちゃんを守る観点から妊婦の周りにいる方（夫、子供及びその他の同居人）は風しんに罹らないように予防に努めましょう。

風しん Q&A2018 年 1 月 30 日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

風しんについて（厚生労働省）

[https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/)

衛研ニュース第 20 号（高知県衛生研究所）30～50 歳代の男性！風しんのことを知っていますか？

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2018101000056.html>

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

### ○急性弛緩性麻痺の報告が増えています

急性弛緩性麻痺(以下 AFP)は「急性に四肢の弛緩性運動麻痺を呈する疾患」の総称で平成 30 年 5 月 1 日より診断した場合に届出が必要な 5 類感染症として指定されました。

国内では現在ポリオは根絶されていることから、AFP の原因としてはギラン・バレー症候群、重症筋無力症、横断性髄炎などがありますが、ポリオ以外のエンテロウイルスも稀ながら急性脊髄炎による AFP を起こします。

AFPの全国における報告数は5月の指定以降0から数件で推移していましたが、直近では第42週から45週の間42例の届出があるなど、ほぼ毎週10例を超える届出数となり、第45週までの報告数は108例となっています。高知県でも第43週に1例の届出がありました。

病原体検出情報では今年10月以降に喘息や気管支炎等の呼吸器症状を呈する患者の咽頭ぬぐい液からエンテロウイルスD68（以下EV-D68）が3件検出されています（2017年2016年は検出なし）。

過去には国内外でEV-D68による呼吸器疾患の流行に関連してAFPの増加が報告されています。

感染予防は他のエンテロウイルス属も含めてインフルエンザなどの呼吸器疾患の対策と同様になります。

飛沫感染予防と手洗いにより接触感染を避けることが大切ですので、日常的な感染予防の手洗いや咳エチケットを心がけましょう。

＜医療機関管理者の皆様へ＞

「急性弛緩性麻痺」は平成30年5月1日から感染症法で全数把握の5類感染症として届出が義務づけられました。

診断された医師は最寄りの福祉保健所または高知県保健所へ届出していただきますようお願いいたします。

なお、急性灰白髄炎（ポリオ）との鑑別のため、衛生研究所において検査を行いますので、診断後速やかに病原体検査のための検体採取をお願いします。

「エンテロウイルスD68（EV-D68）感染症とは」（国立感染症研究所 最終更新日 平成30年11月9日）  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/a/ev-d68.html>

「急性弛緩性麻痺を認める疾患のサーベイランス・診断・検査・治療に関する手引き」（平成30年4月）  
（国立感染症研究所感染症疫学センター（「エンテロウイルス等感染症を含む急性弛緩性麻痺・急性脳炎・脳症の原因究明に資する臨床疫学研究」研究班））  
<https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/AFP/AFP-guide.pdf>



### ☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS・つつが虫病）に注意！

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖かい春から秋にかけて盛んに活動し、この期間に多くの患者発生がみられますが、冬でも発生例が報告されています。これから寒い季節となりますが、屋外で活動される場合はマダニ対策を心がけましょう（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

また、「ツツガムシ」に咬まれることによって感染する「つつが虫病」にもご注意ください。高知県では秋から冬にかけて多く報告されており、ダニの一種である「ツツガムシの幼虫（0.2mm）」が媒介する感染症です。全てのツツガムシが病原体を持っているわけではありません。

予防対策については、マダニと同じく「ツツガムシに咬まれない」ことです。

屋外活動する時には、長袖や長ズボンで肌の露出を避けることや、ツツガムシに対する虫除け剤（有効成分：ディート）を活用するなどマダニと同様の対策をして注意しましょう。

### 発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A（厚生労働省）  
[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts\\_qa.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html)
- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット  
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

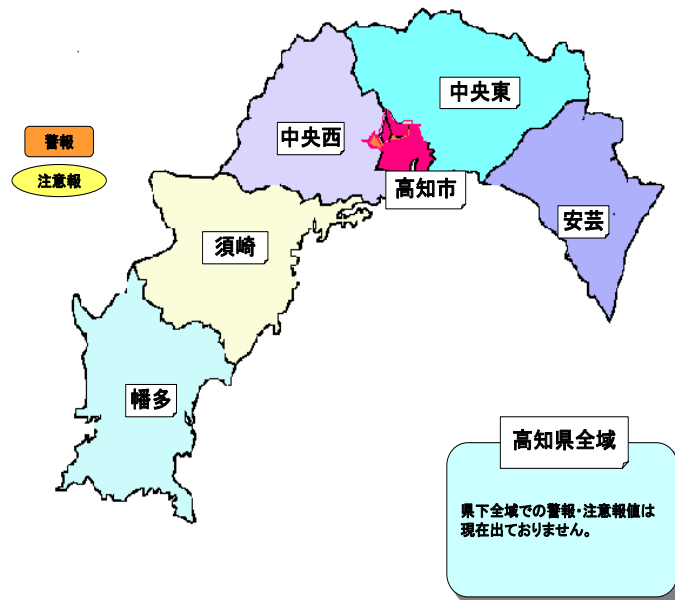
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患）

↑ : 急増    ↗ : 増加    → : 横ばい    ↘ : 減少    ↓ : 急減

疾病名	推移	定点当たり 報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	2. 3 7	幡多で急減していますが、須崎、中央西で急増しています。
A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	→	1. 1 0	幡多で急減、須崎で減少していますが、高知市で増加しています。
突発性発疹	→	0. 5 7	幡多で減少していますが、安芸で急増しています。
手足口病	→	0. 5 0	高知市、須崎で急減、中央西で減少しています。
水痘	↗	0. 3 3	中央東で急減していますが、須崎、高知市、幡多、中央西で急増、県全域で増加しています。

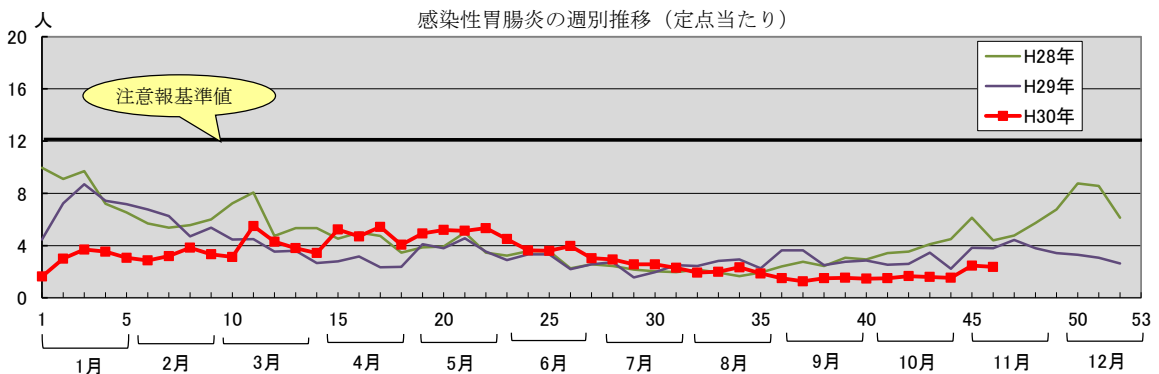
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

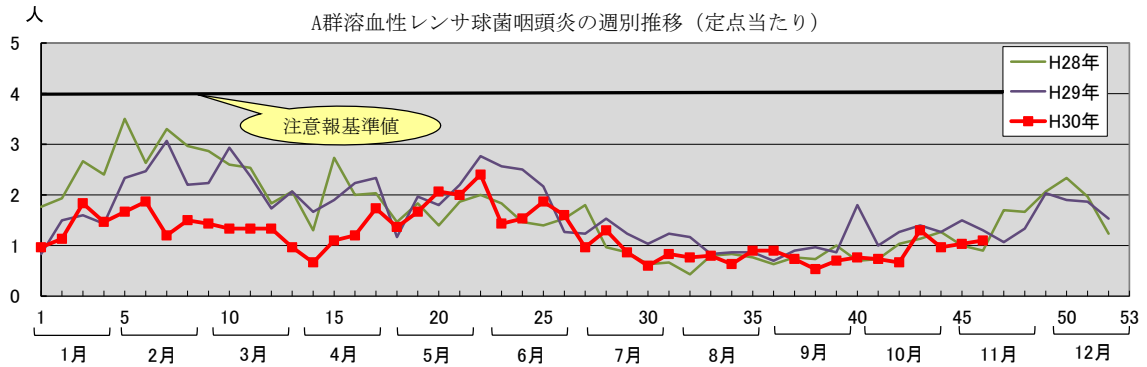
○感染性胃腸炎 第46週：2.37（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり2.37（前週：2.47）と横ばいです。幡多0.80（前週：2.00）で急減していますが、須崎2.00（前週：0.50）中央西0.67（前週：0.00）で急増しています。



○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 第46週：1.10（注意報値：4.00 警報値： 8.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 1.10（前週：1.03）と横ばいです。幡多 0.00（前週：0.20）で急減、須崎 1.50（前週：2.00）で減少していますが、高知市 2.27（前週：1.82）で増加しています。



★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
46	—	39℃,	2	男	高知市	Cytomegalovirus
46	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39℃,咳嗽,上気道炎,	3	男	高知市	Streptococcus pyogenes TB3264

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
45	頸部リンパ節腫大（小指頭大までが++）	38℃,	37	男	須崎	Adenovirus 11
45	—	39℃,	14	男	幡多	Adenovirus 11
45	感染性胃腸炎	下痢,	1	男	須崎	Adenovirus 2
45	—	39℃,発疹,	2ヶ月	男	中央東	Coxsackievirus A9
45	呼吸器感染症	40℃,咳嗽,気管支炎,肺炎,	1	女	中央東	Enterovirus 68
45	不明発疹症	発疹,	4	女	須崎	Human herpes virus 7
45	頸部リンパ節腫大	39℃,	10	男	須崎	Human herpes virus 7
45	手足口病	下気道炎,	1	男	高知市	Rhinovirus

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	90	30歳代 女	安芸
		1		40歳代 男	高知市
		1		70歳代 女	
		1		60歳代 男	中央西
		1		70歳代 男	
5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	20	70歳代 男	中央東
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	1	60歳代 男	幡多
	水痘（入院例に限る）	1	3	60歳代 男	高知市

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
安芸	田野病院小児科	hMP 感染症 1 例 (2 歳女)
中央東	おひさまこどもクリニック	hMPV 感染 1 例 (1 歳女) ヘルペス歯肉口内炎 1 例 (1 歳男)
高知市	けら小児科・アレルギー科	カンピロバクター腸炎 1 例 (6 歳) 病原性大腸菌 O-55 腸炎 1 例 (6 歳) アデノウイルス扁桃炎 1 例 (1 歳)
	高知医療センター小児科	RS ウイルス感染症 1 例 (2 ヶ月女) 病原性大腸菌 1 例 (1 歳男)
	三愛病院小児科	hMPV 2 例 (2 歳女、3 歳女)
	福井小児科・内科・循環器科	RS ウイルス感染症 1 例 (6 ヶ月男) 溶連菌感染症 6 例 胃腸炎が増えてきている
	細木病院小児科	キャンピロバクター 1 例 (6 歳女) ロタ 1 例 (1 歳男)
中央西	石黒小児科	水痘 1 例 (6 歳女：予防接種 2 回済み)
	くぼたこどもクリニック	アデノウイルス結膜炎 1 例 (15 歳男)
須崎	もりはた小児科	滲出性扁桃炎 (アデノウイルス) 2 例 (1 歳女) 流行性角結膜炎 1 例 (1 歳男) 感染性胃腸炎 (ノロ陽性) 1 例 (11 ヶ月男)
幡多	さたけ小児科	水痘 1 例 (2 ヶ月女：兄より感染)

★全国情報

第44号 (10月29日～11月4日)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核328例

3類感染症：細菌性赤痢11例、腸管出血性大腸菌感染症63例、腸チフス1例

4類感染症：E型肝炎9例、A型肝炎16例、重症熱性血小板減少症候群1例、つつが虫病15例  
デング熱6例、日本紅斑熱6例、レジオネラ症43例

5類感染症：アメーバ赤痢5例、ウイルス性肝炎1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症30例  
急性弛緩性麻痺10例、急性脳炎8例、クロイツフェルト・ヤコブ病4例  
劇症型溶血性レンサ球菌感染症7例、後天性免疫不全症候群13例  
ジアルジア症1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症8例、侵襲性肺炎球菌感染症40例  
水痘 (入院例に限る) 6例、梅毒76例、播種性クリプトコックス症2例、破傷風1例、  
バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、百日咳316例、風しん149例、麻しん2例

削除予定：風しん5例、薬剤耐性アシネトバクター感染症1例

報告遅れ：細菌性赤痢1例、E型肝炎2例、重症熱性血小板減少症候群1例

デング熱2例、レジオネラ症12例、レプトスピラ症2例、

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症27例、急性弛緩性麻痺2例、急性脳炎4例

劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、梅毒62例、播種性クリプトコックス症1例

破傷風1例、百日咳117例、風しん27例、麻しん1例

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第46週 平成30年11月12日(月)～平成30年11月18日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第46週						計	前週	全国(45週)	高知県(46週末累計)		全国(45週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				H30/1/1～H30/11/18	H30/1/1～H30/11/11		
インフルエンザ	インフルエンザ				1			1	2 ( 0.04)	1 ( 0.02)	1,705 ( 0.35)	20,897 ( 435.35)	1,769,550 ( 358.28)		
小児科	咽頭結核熱				5	2		1	8 ( 0.27)	9 ( 0.30)	1,415 ( 0.45)	481 ( 16.03)	60,191 ( 19.09)		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎				5	25		3	33 ( 1.10)	31 ( 1.03)	7,671 ( 2.43)	1,673 ( 55.77)	298,078 ( 94.54)		
	感染性胃腸炎	7	11	43	2	4	4	71 ( 2.37)	74 ( 2.47)	17,200 ( 5.44)	4,320 ( 144.00)	673,970 ( 213.76)			
	水痘		1	5	1	1	2	10 ( 0.33)	5 ( 0.17)	1,208 ( 0.38)	252 ( 8.40)	42,857 ( 13.59)			
	手足口病		12	1	2			15 ( 0.50)	17 ( 0.57)	2,389 ( 0.76)	1,098 ( 36.60)	109,723 ( 34.80)			
	伝染性紅斑		2	2				4 ( 0.13)	7 ( 0.23)	2,030 ( 0.64)	157 ( 5.23)	31,477 ( 9.98)			
	突発性発疹	1	4	8	1	1	2	17 ( 0.57)	17 ( 0.57)	1,459 ( 0.46)	489 ( 16.30)	62,378 ( 19.78)			
	ヘルパンギーナ		1					1 ( 0.03)	2 ( 0.07)	658 ( 0.21)	467 ( 15.57)	96,919 ( 30.74)			
	流行性耳下腺炎		1				1	2 ( 0.07)	1 ( 0.03)	396 ( 0.13)	63 ( 2.10)	21,098 ( 6.69)			
	RSウイルス感染症		2	3	1	1	1	8 ( 0.27)	19 ( 0.63)	1,880 ( 0.60)	1,072 ( 35.73)	108,964 ( 34.56)			
眼科	急性出血性結核炎							( )	( )	8 ( 0.01)	( )	504 ( 0.72)			
	流行性角結核炎			2				2 ( 0.67)	1 ( 0.33)	605 ( 0.87)	106 ( 35.33)	26,298 ( 37.78)			
基幹	細菌性髄膜炎							( )	( )	8 ( 0.02)	4 ( 0.50)	434 ( 0.90)			
	無菌性髄膜炎							( )	( )	19 ( 0.04)	1 ( 0.13)	713 ( 1.49)			
	マイコプラズマ肺炎			5				5 ( 0.63)	( )	166 ( 0.35)	91 ( 11.38)	4,385 ( 9.14)			
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			1				1 ( 0.13)	( )	1 ( )	19 ( 2.38)	129 ( 0.27)			
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)			1				1 ( 0.13)	( )	10 ( 0.02)	33 ( 4.13)	3,098 ( 6.45)			
	計(小児科定点当たり人数)	8 ( 4.00)	39 ( 5.56)	102 ( 8.41)	9 ( 3.00)	12 ( 5.75)	10 ( 2.00)	180 ( 5.68)			38,828	31,223 ( 771.08)	3,310,766		
前週(小児科定点当たり人数)	7 ( 3.50)	40 ( 5.72)	99 ( 8.91)	15 ( 4.86)	8 ( 4.00)	15 ( 3.00)		184 ( 6.09)							

注 ( )は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第46週						計	前週	全国(45週)	高知県(46週末累計)		全国(45週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				H30/1/1～H30/11/18	H30/1/1～H30/11/11		
インフルエンザ	インフルエンザ				0.06			0.25	0.04	0.02	0.35	435.35	358.28		
小児科	咽頭結核熱				0.45	0.67			0.27	0.30	0.45	16.03	19.09		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.71	2.27			1.50	1.10	1.03	2.43	55.77	94.54		
	感染性胃腸炎	3.50	1.57	3.91	0.67	2.00	0.80	2.37	2.47	5.44	144.00	213.76			
	水痘		0.14	0.45	0.33	0.50	0.40	0.33	0.17	0.38	8.40	13.59			
	手足口病		1.71	0.09	0.67			0.50	0.57	0.76	36.60	34.80			
	伝染性紅斑		0.29	0.18				0.13	0.23	0.64	5.23	9.98			
	突発性発疹	0.50	0.57	0.73	0.33	0.50	0.40	0.57	0.57	0.46	16.30	19.78			
	ヘルパンギーナ		0.14					0.03	0.07	0.21	15.57	30.74			
	流行性耳下腺炎		0.14				0.50	0.07	0.03	0.13	2.10	6.69			
	RSウイルス感染症		0.29	0.27	0.33	0.50	0.20	0.27	0.63	0.60	35.73	34.56			
眼科	急性出血性結核炎									0.01		0.72			
	流行性角結核炎			2.00				0.67	0.33	0.87	35.33	37.78			
基幹	細菌性髄膜炎									0.02	0.50	0.90			
	無菌性髄膜炎									0.04	0.13	1.49			
	マイコプラズマ肺炎			1.00				0.63		0.35	11.38	9.14			
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			0.20				0.13			2.38	0.27			
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)			0.20				0.13		0.02	4.13	6.45			
	計(小児科定点当たり人数)	4.00	5.56	8.41	3.00	5.75	2.00	5.68			771.08				
前週(小児科定点当たり人数)	3.50	5.72	8.91	4.86	4.00	3.00		6.09							

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）  
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）  
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2018年11月19日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。